

# 沖縄の未来は、 この島に暮らす人々の中にこそある。

沖縄には古くから、「物呉ゆすど我御主（ものぐゆすど わあうしゅう）」という言葉があります。「生活を良くしてくれる人がわたしの主人だ」という意味です。これからの沖縄の未来をより良くしていく「我御主」、沖縄の「あるじ」ほかでもない、わたしたち自身でなくてはなりません。

わたしが地元沖縄について考え始めたのは、沖縄を出て首都圏の大学に進学した1995年、少女暴行事件がきっかけでした。なぜ12歳の少女があのやうな目に遭わねばならないのか、なぜ沖縄がこれほどまでに基地負担を背負わねばならないのか—そのような強い葛藤を抱く一方で、大学の友人たちからは「沖縄に基地があるのはしょうがない」という

声も聞こえてきました。

沖縄に重くのしかかる基地の現実。いくら訴えても、わかってもらえないもどかしさ。しかしあたし自身、沖縄のことをどれくらい知っているのだろう?—沖縄を離れて、広い世界を見てみたいと思っていたのに、気づけば沖縄のことばかり考えていました。

沖縄の現実を見つめ直したい、その思いから地元に帰り、地域の課題に挑戦する多くの方々と一緒に、仕事をしてきました。その経験からわたしは確信しています。沖縄の可能性は、この島に暮らす人々の中にこそあると。その可能性を最大限引き出すために、わたしは政治に挑戦したいと思います。

## 沖縄県民の意思を守る議席

翁長雄志前知事から県政を引き継いだ玉城デニー知事が誕生して1年半。辺野古新基地建設工事は、沖縄県民が幾度となく反対の民意を示してきたが一向に止まらない。それどころか、安倍自公政権は、軟弱地盤があることをひた隠しにしながら、ついに2018年12月14日、辺野古の海に土砂を投入した。そして、全国にコロナ感染拡大による緊急事態宣言が発令される中、沖縄防衛局は突然、沖縄県へ軟弱地盤改良などに伴う設計変更承認申請を提出した。玉城知事が、県独自の緊急事態宣言を出した翌朝のことだった。

わたしたち立憲民主党は辺野古新基地建設に断固反対し、設計変更申請を承認しない玉城知事を支持します。

安倍自公政権は知事選、県民投票、衆院3区補欠選挙、参院選で何度も示してきた辺野古新基地建設反対の県民の民意を踏みにじり、逆なでする行為を続けています。この県議会議員選挙では、再度、辺野古新基地建設「反対」の民意を安倍自公政権に突きつける選挙です。玉城県政を安定的に支えるには、過半数を堅持しなくてはなりません。立憲民主党はオール沖縄で玉城県政を支え、辺野古新基地建設を断念させ、県民に寄り添った県政を継続させます。



### きゅな 智子

きゅなともこ

#### プロフィール

●1976年11月24日生まれ  
屋号：入内間小

(イリウチマグー)

家族：長男（4才）、父・朝徳（読谷）、母・皆子（小禄・旧姓・上原）

略歴：鏡原保育園、塙花幼稚園・小学校、鏡原中学校（14期）、邦那高校（7期）、慶應大学総合政策学部卒、松下政経塾（20期）

2002年：㈱エフエム那覇の立ち上げから運営・制作・事務など裏方として3年間勤務。

2002年：「まちづくりNPOコーディネーター」商店街活性化、子どもによるまちづくり事業などに尽力（5年間）。

基地内大学「メリーランド大学」で会計・経済を専攻しつつ、日本IBM関連グループ企業で10年間勤務。

●きゅな智子事務所  
那覇市字子禄381番地 後原共同住宅1F  
E-mail: okyuna@gmail.com  
TEL: 098-987-0702

## “暮らし”の足元から、 新しい沖縄を前へ。

**立憲民主党**  
The Constitutional Democratic Party of Japan  
リッケン  
沖縄県議選那覇市・南部離島選挙区 公認候補決定  
立憲民主党はきゅな智子氏を沖縄県議選の公認候補として決定しました。



# きゅな 智子 ともこ

先の見えない今だからこそ、

## 足元から見つめ直す。

これまでの沖縄の政治や経済は、本当に沖縄の人たちを豊かにしてきたのでしょうか。新型コロナウイルスの影響によって、重く暗い不安を胸に抱える人が増えていく中で、そんな疑問が頭に浮かびました。

長い間、沖縄は憤りや、怒りの念を胸に押し止め、我慢の中で前に進んできました。ですが、その道は本当に沖縄の未来へと続いているのでしょうか。

沖縄は政府による財政支援を元手に多くの企業を誘致し、私たちは、一見、豊かになりました。

一方で、気が付くと多くの人が非正規で働かされるようになり、薄く細いセーフティネットの網の上で生きることを強いられるようになりました。

そして、その暮らしの足元はあまりに脆く、4歳児を育てるシングルマザーである私は、給食費の支払いにさえ負担を感じてしまうような社会のあり方に、心

の底から恐怖を感じています。

かつてない閉塞感が街を覆う今、私たちは、沖縄の進むべき道をもう一度見つめなおし、私たち自身の手で沖縄を足元から変えていく必要があるのではないかでしょうか。

沖縄の資源を活用することで地元企業を育て、地域産業が大地に根を張っていくように沖縄経済が未来に向かって地歩を固めていく。そして教育や福祉を育てていくために、その現場をしっかりと支える。

沖縄の大地と海と空を感じながら、そこで暮らす全ての人が共に生きていく、本来沖縄にあったはずのそんな社会をもう一度つくっていきたいと、私は考えています。

**立憲民主**  
号外  
The Constitutional Democratic Party  
リッケン  
2020.5.11

立憲民主党  
〒107-0052  
東京都千代田区平河町  
2-12-4 フジビル3F  
Tel. 03-6811-2301  
Fax. 03-6811-2302  
goiken@cdp-japan.net  
http://cdp-japan.jp/

未来を描く。



## 子どもたちが描いた、 色鮮やかな、未来。

以前、那覇市による「コミュニティいきいきプロジェクト」を通して、NPOスタッフとして、大道公民館内に地域住民が集まるコミュニティサロンの運営に携わったことがありました。

地域の大人が集まるることを期待してはじめたものの、実際にサロンを「たまり場」にしたのは大人ではなく、小学生たちでした。

せっかくなので、子どもたちと近くにある栄町市場で何かできないかと考え、市場の景観を明るくしようと「シャッターペイント」を実施しました。

子どもたちが店舗からイメージして描いた絵を元に、プロがシャッターに下絵を描き、子どもたちがペンキで色を塗っていく。かかった予

算は、ペイント前のシャッター掃除と、ペンキ代のみ。

黒くくすんだシャッターに向き合う子どもたちの顔は真剣そのもの。その子どもたちの手によって、鮮やかな色で塗り替えられていくのは商店街の未来。ですが、そのときは、この鮮やかな未来こそが沖縄であってほしいと願わざにはいられませんでした。

コミュニティサロンを運営した3年間は、このような小規模イベントを毎月のように行いました。子どもたちが持つ未来を描く力、そして、その力を導いていく大人の役割とその重要性は、栄町市場での活動を通して教わったと今でも感謝しています。

## FM放送局時代、

## この地域にしかない物語を自慢したかった。

学生生活を終えて、東京から戻ってきたばかりの私は、コミュニティFMを地域に作りたいと必死でした。

地域の自営業者や市民活動のみなさんと一緒に番組をつくっていく中で、沖縄の課題にまっすぐに向き合う人たちの強さを、私は自分のことのように誇りに感じていました。

だからこそ、その姿をFM波に乗せて発信したかった。このまちにしかない素敵な物語を自慢したかったのです。

コミュニティFMでの放送を開始してから、朝と夕方の2回、国際通りエリアでのレポーターも担当していたとき、新規開店して取材したお店の多くが、1年も経つと那覇の中心市街地から離れていってしまうことに気づきました。

彼らが口を揃えて言ったのは「家賃が高くて払えない」。那覇の中心市街地は家賃相場が高く、それだけの家賃を払えるお店はやはり限られていたのです。

一方で私たちも、残念ながら拠点についていた

国際通りを離れざるを得なくなりました。資金繰りばかりが忙しくなっていく中、解雇するスタッフ、残るスタッフを誰にするか、リスト案をつくる仕事をしなくてはならなくなりました。一番つらい仕事でした。私自身もスポンサーとの契約がすべて終了した時点で、退社をしました。

その後、私たちのラジオ放送局は別の経営者に引き継がれることとなり、今は国際通り近くで、ライブハウスも兼ねたスタジオから多くの市民の手によって情報発信しています。設立当初に比べると番組の数も多くて、15年たって「市民参加のコミュニティFM」が形になっていきます。

設立当初、拠点を移しながら地域との関わり方を模索した時期、ラジオ好きな人が新たに拠点をつくり再スタートした時期。それぞれに適切な役割を担いながら、バトンを渡していくよう今の姿になったのです。

その設立に小さくとも、一応役割を担ったことは今でも私の大きな「誇り」です。

### 政府は、第二次補正予算の編成作業を急げ

野党は、コロナウイルス感染症による厳しい状況と緊急事態宣言の延長により、社会・経済への一層の影響が危惧されていることから、以下の予算措置を急ぐよう政府に強く要請しています。

- “地域”を支えるための、**地方創生臨時交付金の大幅増額**。
- “医療”を充実させるための、**医療機関等支援給付金の創設**。
- “中小企業者・個人事業者”の事業継続のための、**家賃支援の早期実施**。
- “困窮している学生”を支援するための、**授業料減免、一時金支給等の早期実施**。
- “ひとり親家庭の生活”的安定を図るための、児童扶養手当受給者に対する**支援（給付）**。
- “十分な休業手当”を確保するための、**雇用調整助成金の上限額引き上げ**。
- “経済的理由等で自ら死を選ぶ者”が出ないための、**生活を支援と相談体制の拡充**。